

インドネシアで医療協力を進める 共同研究講座設置しニーズ調査



調印式



インドネシア風景

現地の大手病院 グループと覚書



インドネシア医療関連共同研究講座 先端技術やデジタル化を支援

広島大学病院はインドネシアとの医療連携を積極的に進めています。インドネシア医療関連共同研究講座を昨年4月に設置、今年3月には民間の病院グループとMOU（覚書）を結び、具体的な協力を加速させています。

45病院傘下のヘルミナグループと協力

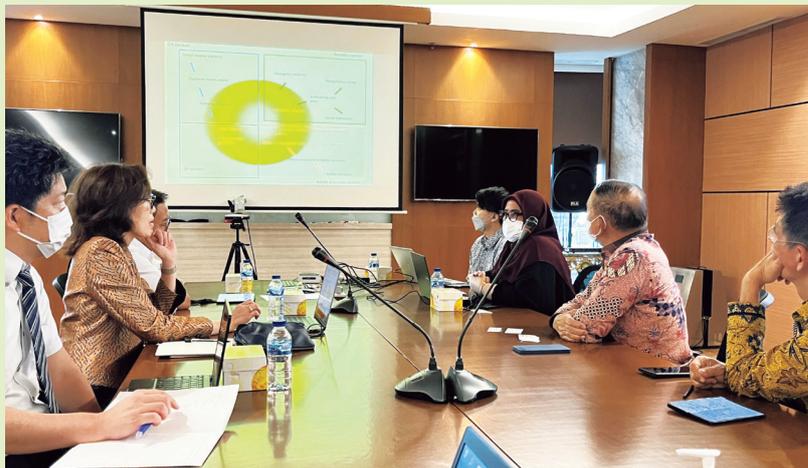
3月14日、広島大学病院にインドネシアの大手「ヘルミナ病院」グループの病院長や幹部ら約50人がバスに分乗し次々に訪れました。大学病院と同グループ、インドネシア住友商事の3者でMOUに締結するためです。調印



▲集合写真

式では工藤美樹病院長、ヘルミナグループのハスモロ代表取締役社長、インドネシア住友商事の辛島裕取締役社長が、それぞれ協定書に署名しました。工藤病院長は「共同研究講座によりインドネシアの医療へ貢献する目的でニーズ調査を行っており、ヘルミナグループの各病院にも快く協力していただきました。それらが今回の調印に結び付きました。インドネシアの医療課題をどう解決していくか、本院がそれにどう貢献できるのか。本日がその具体化へのスタートです。全力で協力していきます」とあいさつしました。調印後は広島大学病院から、がん化学療法科、整形外科、高度救命救急センター、消化器外科の4診療科がそれぞれ、最新医療などを紹介しました。

インドネシアは赤道をまたぐ地域に位置し、数多くの島しょ部からなる国で人口約2億7000万人と世界第4位を誇ります。経済成長率も高く、健康への関心が高まっているといい、医療への投資も増えています。そ



の中でもヘルミナ病院グループは国内に45病院、6100床を有する屈指の大手。新たな病院開設も積極的に展開しています。先端医療の導入やIT化にも力を注いでいます。広島大学病院との連携により、医療技術の向上、人材育成、医療分野のデジタル化などを進めていきます。

◀現地ミーティング

住友商事とも協力し医療貢献策探る

共同研究講座は、広島大学とインドネシア住友商事会社が協力して設置しました。医療の発展に貢献する目的で、まずは広島大学病院の医師らを現地に派遣して医療面での協力方法などを探ってきました。また、広島大学への留学経験者が多いことから、昨年5月には越智光夫学長が訪問して、ジャカルタで広島大学校友会インドネシアチャプターの設立記念総会を開催しました。同国内で医療支援活動を展開するために有効なネットワークの構築も進めています。今回の調印へ向けては10月に広島大学・病院関係者がヘルミナ病院を訪れ、連携内容を協議しMOUに結び付けました。



今後はさらに医療ニーズについて調査するとともに具体的に先進医療の技術指導、人材育成に取り組んでいきます。予防-診断-治療-移植の各フェーズを通じた医療サービスプラットフォームと、オンライン診療などを含めた医療面でのDX(デジタルトランスフォーメーション)を活用したデータプラットフォームを連携・構築していくこととしています。これらによりインドネシアでの医療貢献の具体化を一層進めていきます。

移植や予防医療など具体化を進める



インドネシアに派遣された 徳毛 健太郎 助教 (がん化学療法科) の話

昨年10月末から2カ月間ジャカルタを中心に現地医師の話の聞いたり、病院を視察したりした。都市部の医療は一定の水準にはあるが、保険などの関係で出来る医療に制限があるのも事実。糖尿病や腎臓病が多く、まずは腎臓移植などでバックアップしながら技術提供できる分野から進められれば。また成人病などに対する予防意識が薄いので、将来的にはノウハウを生かして予防医学を広めるようなプログラムも提供できればいい。今回の調印で具体的な貢献へ踏み出す段階に入ったと感じる。

ニュースアップ

2023年度の広島ロータリークラブ賞 2件を採択

2023年度の広島ロータリークラブ賞に2件が採択されました。リウマチ・膠原病科の茂久田翔講師（4月から検査部長）「炎症誘導性宿主受容体NRP2の制御を介したCOVID-19新規治療法の開発」と、感染症科の北川浩樹助教「βラクタム系抗菌薬持続投与による血中および組織における薬物動態力学的検討」の2件です。

3月22日、病院長室で採択通知があり、工藤美樹病院長から2人に採択通知書が手渡されました。この賞は広島ロータリークラブ90周年記念事業の一環として、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）をはじめとした感染症研究の目的で、広島大学にいただいた寄附金を基に2022年度に設立。今回は9件の応募があり、選考会議をへて選ばれました。

茂久田講師の研究は、リウマチ患者の世界的データから新型コロナウイルスが細胞に感染する際に重要となる宿主受容体（NRP2）に着目。炎症性サイトカイン（TNF、IL-1β）の刺激によってNRP2の発現が上昇、ウイルスの増殖も促進することを突き止めました。さらにshRNAでNRP2の発現を阻害すると、ウイルスの増殖も抑制される方向も示され、新たな抗体製剤開発につながると期待されます。「医系科学研究科ウイルス学研究室と一緒に進めた研究。引き続き有用な研究成果が出せれば」と話しました。

北川助教の研究は、下部消化管手術時に4種類のβラクタム系抗菌薬をボラス投与後に持続投与し、血中、腹水、組織中の薬物動態を調べるものです。それぞれ10例、計40例を計画。得られたデータを基に、院内感染を起こす病原菌ごとに最適な抗菌薬の持続投与方法を明らかにしていきます。さらに血中濃度を用いた組織濃度予測への応用も視野に入れています。「実臨床における有効なβラクタム薬持続投与方法に繋がる成果が出せれば」と期待しています。



緑内障啓発で「エールエールA館」などライトアップ

中途失明原因の第1位となっている緑内障について、早期診断・治療を呼び掛ける「世界緑内障週間」（3月12日～18日）に合わせ、JR広島駅前のエールエールA館を日没から午後10時までグリーンにライトアップしました。

緑内障は高齢になるほど有病率が高く、高齢人口の増加により患者数が増加していることが推定されています。放置すれば失明の恐れもある疾患ですが、治療する薬剤も増え、手術療法も選択肢が広がっています。早期発見し、継続治療することで日常生活に支障ないレベルにとどめるケースも増えていますが、自覚症状が少なく、気づかない場合が多いとされています。

日本緑内障学会ではこうした正しい知識を広め、眼科受診を促す目的で、緑内障のシンボルカラーのグリーンにライトアップする啓発活動を展開。広島大学病院眼科でも活動に取り組み、広島駅南口開発株式会社のご協力で、エールエールA館のライトアップに取り組みました。

このほか、宇品大橋（広島市南区）は12日と18日、広島大学病院正門そば四季の塔は14日、緑色にライトアップしました。



広島大学病院「四季の塔」

栄養管理部
情報

肥満を 予防しよう



担当した管理栄養士

体脂肪の増加による肥満は、様々な疾患の原因となります。
健康づくりのためには肥満の予防が欠かせません。

体脂肪1kgを減らすのに必要なエネルギー量は？

脂肪は1g9kcalですが、体脂肪1kg燃焼するのに必要なエネルギー量は、9000kcalではありません。

脂肪細胞には、水分や脂肪を形成しているたんぱく質などの物質が20%程度含まれているため、体脂肪を1kg減らすのに必要なエネルギー量は、9000kcalのうちの約80%で、およそ**7200kcal**になります。

体脂肪1kgを1か月で減らすには？

約7200kcal ÷ 30日 = 約**240kcal**となり、一日でいつもの食事から240kcal分減らすか、240kcal分多く運動する必要があります。



下の図に示す約80kcalの食品、運動の中から3つ組み合わせると、240kcal相当になります。

約80kcalに相当する食品

-  ご飯 50g
-  ビール 小ジョッキ1杯弱
(約200ml)
-  コーラ コップ1杯弱
(約170ml)
-  りんご 1/2個
-  ビスケット .. 2枚

約80kcalに相当する運動

(体重60kgの人の場合)

-  ウォーキング(速歩) . 20分
-  自転車 20分
-  ジョギング 10分
-  水泳(クロール) 10分
-  なわとび 5分

日々の生活に食事療法や運動療法を取り入れながら、
健康的な体づくりを目指しましょう。

診療科最前線

「顎・口腔外科」

(診療科長:柳本惣市教授)



▶ 診療科の特徴

顎・口腔外科は、口腔および顎・顔面領域の疾患に対する治療を担当する診療科です。この領域には歯が原因となるものから癌までさまざまな疾患が発生します。また交通事故やスポーツなどの外傷、顎変形症ならびに唾液腺疾患などの外科的疾患のほかにも、口腔粘膜疾患や神経性疾患などの内科的疾患も一部含まれます。

▶ 患者さんの動向

外来では、毎月約160人の初診患者さんの診療を行っています。かかりつけ歯科医院では対応困難な患者さんの紹介が大半を占め、他院口腔外科からは難症例を受け入れています。年間の手術件数は約200件で、入院患者数は260人、そのうち悪性腫瘍(口腔がん)は約100人で、もっとも多くなっています。

▶ 得意分野

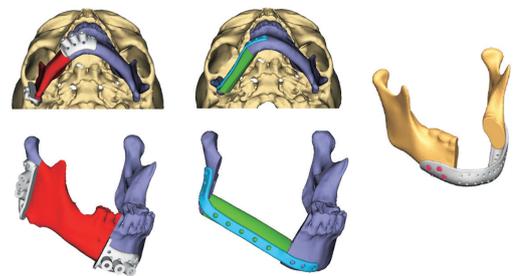
診療ガイドラインに基づき、口腔がん診療を行っています。口腔領域を専門として扱う診療科として、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線治療科、がん化学療法科および形成外科をはじめとする関連診療科と密接に連携して質の高い医療の提供を行っています。

▶ かかりつけ医との連携

当診療科の初診患者さんの約80%は、かかりつけ歯科医院や地域医療機関からの紹介です。かかりつけ歯科医院での口腔がん早期発見は、進行口腔がんの割合の減少につながり、生存率の向上につながります。当診療科では、広島県歯科医師会と協力し、情報通信技術(ICT)による「遠隔口腔粘膜疾患(口腔がん)相談窓口」を開設しています。

▶ 新しい動き

口腔領域の異常は、食事や発音・会話がうまくできないなどの機能的な障害に加えて審美的な障害も生じます。治療により口腔・顎・顔面全体の自然な形態や機能を回復することが重要です。患者さんの手術前のCT画像を元に手術後の顎の形をシミュレーションし、患者さん個々に応じた咬合(かみ合わせ)や顔貌の再現を可能とするバーチャルサージカルプランニング=図版=という技術を積極的に取り入れています。また、全国の口腔外科施設との多機関共同臨床研究にも参画し、新たな治療法開発にも取り組んでいます。



催しのご案内

(2023年4月~7月)

がん治療を支える患者サロン

最新! 食道がんの治療について

5月18日(木) 13:30~14:30 会場: 臨床管理棟3階 3F2会議室 /zoom
講師: 消化器外科 医師 浜井洋一

抗がん剤の副作用とうまくつきあうために

6月15日(木) 13:30~14:30 会場: 臨床管理棟3階 3F2会議室 /zoom
講師: がん化学療法看護認定看護師 清本美由紀

いろいろわかってきた! がんゲノム医療

7月20日(木) 13:30~14:30 会場: 臨床管理棟2階 2F1会議室 /zoom
講師: 遺伝子診療科 医師 檜井孝夫

・会場参加は毎回10人

いずれも申し込み・問い合わせ: がん相談支援センター ☎082-257-1525

患者おしゃべり会

場所: 診療棟2階 健康情報プラザ

5月30日(火) 13:30~14:30 7月25日(火) 13:30~14:30

自宅で学べる肝臓病教室

肝硬変について(仮)

公開日: 6月12日(月)~通年公開 講師: 消化器内科 医師 大野教司
開催方法: 肝疾患相談室ホームページからの視聴
(講演動画配信)

HP URL: <http://shounai.hiroshima-u.ac.jp/counseling/>
(「広大 肝臓病教室」で検索)

申込: 不要
問い合わせ: 肝疾患相談室
☎082-257-1541(10:00~12:00 13:00~16:00)